広告　企画・制作　LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

地域性生かしてガラスに新たな表情

布野 康　島根県／吹きガラス作家

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」（主催：レクサス）は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援

プロジェクトのスーパーバイザーに、放送作家として多くのヒットを手がけ、くまモンの生みの親でもある小山薫堂氏（建築家／東京大学教授）、グエナエル・ニコラ氏（デザイナー）、清川あさみ氏（アーティスト）、生駒芳子氏（ファッション・ジャーナリスト／アート・プロデューサー）、下川一哉氏（意と匠研究所）らをサポートメンバーに発足。第一回となる今回は、全国47都道府県から地域推薦、一般公募合わせて52名の若き匠が選出された。

昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを重ね、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトづくりに取り組んだ。「本当に欲しくなるプロダクトか？」「地域のオリジナリティーはあるか？」「コンセプトやターゲットは明確か？」など、サポートメンバーから真剣なアドバイスが行われ、匠は約一年の試行錯誤を経てプロダクトを完成させた。

1月18日に都内で行われたイベントでは全国の百貨店、セレクトショップのバイヤー、メディア、デザイン関係者などに向けてプレゼンテーションを実施。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなるチャンスを手にした。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。日本のモノづくりを支え発展させ、そこから新しい価値を生み出そうとしているレクサスのブランド思想の1つである「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。島根県選出の匠、吹きガラス作家・布野康さんの思いと、完成したプロダクトを紹介する。

布野さんの工房でのエリア・コンサルティング

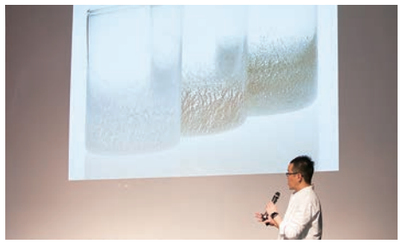
1月18日、プレゼンテーションにて

スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科卒。「料理の鉄人」や「ニューデザインパラダイス」、映画「おくりびと」など数多くのヒット作品の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある

県産鉱物との融合で独特の風合いを表現

型を使用しない「宙吹き」という技法でグラスや花器などを中心に、これまで数多くの作品を生み出してきた布野さん。今回のプロジェクトを通して完成したのが、地域性を出すためにガラスの表面に島根県産の鉱物の紛体を溶着させ、独特の風合いを表現した「雲」グラスシリーズの温泉津硅砂「羊雲」・来待石「鱗雲」・福光石「霧雲」だ。


プロダクトを紹介する布野さん

鉱物をガラスに張り付ける技法が最大のポイント。

熱して溶かしたガラスに鉱物が付くと短時間で固くなり、成形しにくくなる。これを防ぐためにガラスの温度を微妙に変えながら作業を進めた。さらに、鉱物が付着しやすいようにより細かく加工して張り付けた。

実際にプロダクトに触れてもらい説明する布野さん

グラスを通じて地域の魅力発信

作業手順やスピードにも注意を払いながら、試作を何度も繰り返した。結果、ガラスでありながら、素焼きの陶器のような風合いを見事に表現。さまざまな生活シーンやスタイルに溶け込む、日常使いに適したロックグラス、フリーグラスの2種類を完成させた。使い込んでいくうちに表面の手触りや艶など変化していくことも特長の一つだ。

「通常は融合することのないガラスと県産鉱物から生まれたグラスをいろんな人に使用してほしい」。布野さんはプロダクトを通じて、県産鉱物資源への関心を持ってほしいと期待を込める。

布野さんが仕上げた「雲」グラスシリーズの温泉津硅砂「羊雲」・来待石「鱗雲」・福光石「霧雲」

川氏からは、「形や色にこだわり過ぎず、ガラスの自然な美しさをそのままに、鉱物資源それぞれの魅力を最大限に引き出すことで、新たな表現に挑戦してほしい」とアドバイスを受けた。布野さんは素材の違いを楽しめるようにシンプルな形状にすることを決定。口当たりを良くするために発案当初に想定していたグラス全体にではなく、使用者の手に触れる部分にのみ鉱物を施すことにした。

設定したテーマに向けて作品を仕上げていく制作活動はこれまでにあまり経験がなく、制作期間中は刺激的な日々を過ごしたと振り返る。また、全国各地で活躍する匠たちとの出会い、交流の中から新たな視点や価値観が生まれ、布野さんは活動のさらなる広がりの可能性を感じたようだ。

初めての経験から成長実感

布野さんは大学でガラスを学び、卒業後は島根県奥出雲町のガラス工芸館に12年間勤務。2009年に独立し、出雲市内に工房「Zap glass studio」を構えている。県内で伝統工芸品を制作する若手職人グループ「シマネRプロダクト」のメンバーでもあり、島根から伝統技術を国内外に発信するための取り組みも精力的におこなっている。

今回のプロジェクトでは、ガラスを通じて地域の魅力を発信していくことをテーマに掲げ、手に触れる人に驚きと感動を与えたいと制作活動に励んだ。サポートメンバーの下川氏からは、「形や色にこだわり過ぎず、ガラスの自然な美しさをそのままに、鉱物資源それぞれの魅力を最大限に引き出すことで、新たな表現に挑戦してほしい」とアドバイスを受けた。布野さんは素材の違いを楽しめるようにシンプルな形状にすることを決定。口当たりを良くするために発案当初に想定していたグラス全体にではなく、使用者の手に触れる部分にのみ鉱物を施すことにした。

設定したテーマに向けて作品を仕上げていく制作活動はこれまでにあまり経験がなく、制作期間中は刺激的な日々を過ごしたと振り返る。また、全国各地で活躍する匠たちとの出会い、交流の中から新たな視点や価値観が生まれ、布野さんは活動のさらなる広がりの可能性を感じたようだ。

布野さんの工房と使用する工具

布野 康
島根県／吹きガラス作家

1975年島根県出雲市生まれ。2009年出雲にて築炉「Zap glass studio」主宰。2010年「ビアマグランカイ8」入選、島根県総合美術展工芸部門銀賞。2011年「日本伝統工芸展中国支部展」入選、島根県総合美術展工芸部門銅賞。2012年「ビアマグランカイ9」入選、島根県総合美術展工芸部門連盟賞。「MAISON&OBJET2014」出展。

今回得た出会いや経験を生かして、「照明などの空間表現にも積極的に挑戦していきたい」と、布野さんは次の目標に向けてすでに動き出している。これからもさらなる活動の幅を広げ、成長を続ける布野さんの活躍から目が離せない。

独特の風合いが楽しめるグラス

島根の工芸を広める一翼を担いたい。

1月に都内で開かれたバイヤー向けプレゼンテーションの場には、自分のプロダクトはもちろんだが、島根県全体の魅力をPRするつもりで臨んだ。来場者にはプロダクトに触れ、経年変化による手触りなどを実感してもらった。驚きの声が多く、狙い通りの反応に手応えを感じた。「技術面以外でも、自分の作品を言葉にして表すことも初めてで、表現方法も勉強になった。また、数多くの優れた匠のプロダクトに触れることができて、プロジェクトに参加することで得た経験は自身の成長につながる」と、達成感に満ちた表情で語った。

島根県出雲市の景色

LEXUS NEW TAKUMI PROJECT